

|         |               |                   |  |
|---------|---------------|-------------------|--|
| 科目担当者氏名 |               | 科目担当者連絡先（メールアドレス） |  |
| 浅川 達人   |               |                   |  |
| 連絡責任者氏名 |               | 科目設置機関名           |  |
| 浅川 達人   |               | 明治学院大学 社会学部 社会学科  |  |
| 授業科目名   | 科目認定番号        | 受講者数              |  |
| 社会調査実習  | MJGa-160801-0 | 15人               |  |

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

「外国につながる人々に対するイメージ・寛容性」を測定する設問は比較的厚くすることができた一方で、それらを規定する要因である独立変数を的確に設定することは、残念ながらできなかった。「外国につながる人々が抱える生活問題」に関する先行研究のレビューが足りなかったことが、その原因であると考えられる。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

## 1. 調査のテーマ／領域：

外国につながる人々の生活環境に関する調査

## 2. 調査の内容／概要：

春学期には、インタビュー調査およびビジュアル調査の学習を行った上で、非参与観察法調査および参与観察法調査（学習支援室調査）を行った。秋学期には、質問紙調査を行った。

## 3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

学習支援室調査は、東京都で活動している「外国につながる子どもたちを対象とした学習支援」を行っている全ての団体についての悉皆調査であった。質問紙調査では、サンプリングは行わず、浅川が担当する「社会統計学」の履修学生と調査実習受講者家族とした。（なお、サンプリングは別途教室にて実習を行った。）

## 4. 主な調査項目：

外国につながる人々のある友人、外国人と一緒に仕事した経験、外国人との交際、外国につながる人々に対するイメージ、外国文化に対する親しみ、ボランティア経験、外国人スポーツ選手に対するイメージ、在日外国人に関する知識

## III. データ収集の方法と結果

## 5. データ収集（現地調査）の方法：

参与観察法および質問紙調査

## 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

参与観察法調査は2016年6月に、東京都を対象地域として行った。質問紙調査は2016年10月に行った。調査員数はいずれも15名であった。

## 7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

学習支援室調査は悉皆調査であり、十分な量と質のデータを得ることができた。質問紙調査は、サンプリングを経て対象者を選んだわけではないので、回収率は計算できない。有効回収票数は59票であった。

## IV. データ分析の方法と結果

## 8. データ分析／解釈の方法：

単純集計、クロス集計、平均値の差の検定、回帰分析などを行った。

## 9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

外国につながる人々に対するイメージ・寛容性について、記述的に分析することができた。

## 10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.33』2017年3月発行。